

科目名			担当者	
現代国語表現			高橋 哲	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	無

授業の目的と到達目標	受講生にとって、「日誌」という言葉でイメージされるのは、おそらく「学級日誌」ではないだろうか。そしてその作成は、当たり障りのないことを機械的に書けば済んでいたであろう。しかし、仕事上の「日誌」は、情報の共有・引き継ぎなどといった様々な意義を持ち、時に長文にならざるを得ないほど重要なものである。そこで本授業では、基本的な文章の書き方を確認しつつ、個人的な「日記」と実務的な「日誌」との違いを理解した上で、受講生に簡潔で分かりやすい日本語表現を身につけさせることを目標とする。			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題文の要約</li> <li>・「日記」と「日誌」との書き分け</li> <li>・その日起こったことをメモした上での文章化</li> <li>・常体（だ、である調）、書き言葉を使いこなせるようにする</li> <li>・誤字や脱字がなく、かつ簡潔で分かりやすい文章が書けるようにする</li> </ul>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	自己紹介文作成	第 16 週	前期に学習した文章修正能力の確認	
第 2 週	常体と敬体の混じった文章の修正	第 17 週	自己 PR 文作成	
第 3 週	書き言葉と話し言葉の混じった文章の修正	第 18 週	口頭情報のメモ化	
第 4 週	誤字・脱字を含んだ文章の修正	第 19 週	メモしたものの文章化	
第 5 週	漢字・語句の学習①	第 20 週	漢字・語句の学習③	
第 6 週	漢字・語句の学習②	第 21 週	漢字・語句の学習④	
第 7 週	だらだらとした長い文の修正	第 22 週	課題文の要約③	
第 8 週	課題文の要約①	第 23 週	課題文の要約④	
第 9 週	課題文の要約②	第 24 週	日記を書く②	
第 10 週	日記を書く①	第 25 週	日誌を書く②	
第 11 週	日誌を書く①	第 26 週	日誌の自己点検をする	
第 12 週	葉書・手紙の書き方	第 27 週	日記を書く③	
第 13 週	メールの書き方	第 28 週	日誌を書く③	
第 14 週	履歴書作成	第 29 週	日誌の他者からの点検を受ける	
第 15 週	前期試験対策	第 30 週	後期試験対策	
成績評価方法	提出物 50% 定期試験 50%			
教科書	「日本語表現」田上貞一郎			
参考書	「こわくない国語 文法・漢字・ことば」公文出版 等			
備考	特になし			

科目名			担当者	
情報処理			川口 広美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>さまざまな文献や資料、データの収集・整理・分析を適切に行う事により、仕事・業務の効率化とともに、好ましい結果と評価を導き出すことが可能となる。本科目では、ツールとしての WORD, EXCEL の基本的利用方法を演習していくとともに、社会人として備えておくべき常識的知識・技術として、検定試験合格を目標とする。</p> <p>※情報処理技術者の人材育成と教育に携わっていた教員が、情報処理の演習授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. EXCEL の基本操作を理解し、種々のデータ処理ができるようになる。</li> <li>2. WORD の基本操作を理解し、スムーズに各文書が作成できるようになる。</li> <li>3. サーティファイ EXCEL 表計算処理技能認定試験 3 級の合格を目指す。</li> <li>4. 全経文書処理技能検定 3 級の合格を目指す。</li> </ol>

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	ガイダンス/EXCEL(ブック・シート)	第 16 週	WORD の基本操作/文字の入力・変換
第 2 週	データの入力と編集/罫線/数式の入力	第 17 週	文書入力①/ページレイアウト/ビジネス文書
第 3 週	応用的な操作を含んだ演習	第 18 週	文書入力②/文字の編集/文字の印刷
第 4 週	関数の入力演習① (SUM, ROUND, AVERAGE 他)	第 19 週	文書入力③/表の作成
第 5 週	関数の入力演習② (COUNT, MAX, MIN, RANK, EQ 他)	第 20 週	文書入力④/表を伴った文書の作成①
第 6 週	グラフの作成 (グラフ要素とグラフツール)	第 21 週	文書入力⑤/表を伴った文書の作成②
第 7 週	問題演習 (ヘッダ・フッターの設定を含める)	第 22 週	文書入力⑥/表を伴った文書の作成③
第 8 週	図形の挿入/データの並べ替え/データの抽出	第 23 週	文書入力⑦/総合問題 1, 2
第 9 週	条件付き書式/演習問題	第 24 週	文書入力⑧/総合問題 3, 4
第 10 週	技能検定試験対策①練習問題解答	第 25 週	総合問題 5
第 11 週	技能検定試験対策②練習問題解答	第 26 週	検定試験対策①模擬問題解答 1
第 12 週	技能検定試験対策③練習問題解答	第 27 週	検定試験対策②模擬問題解答 2
第 13 週	技能検定試験対策④練習問題解答	第 28 週	検定試験対策③模擬問題解答 3
第 14 週	技能検定試験対策⑤練習問題解答	第 29 週	検定試験対策④模擬問題解答 4
第 15 週	技能検定試験対策⑥練習問題解答	第 30 週	検定試験対策⑤模擬問題解答 5

成績評価方法	<p>以下の項目をもとにして、総合的に成績評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. WORD および EXCEL の課題を的確に提出しているか。</li> <li>2. 定期(期末)試験の結果が、出席状況も含めて合格基準を満たしているか。</li> <li>3. 知識・技術取得に対して、自発的な授業態度であるか。</li> </ol>
教科書	『Word & Excel 2019 基本&活用 マスターブック』 株式会社インプレス
参考書	必要に応じて資料・データを提供する
備考	理解度に個人差があることを念頭に、個々の指導に配慮しつつ、予習・復習の実践を進めて行く

科目名			担当者	
経済学概論			貝山 道博	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	日常身の回りで起きている様々な経済社会現象を正確に理解し、正しい経済行動を行えるようになることを目的にする。
授業の概要 達成課題	様々な経済現象を消費者、生産者、金融機関（銀行、証券会社、保険会社等）及び政府（国、都道府県及び市町村）のそれぞれのサイドから分析し、それらを総合することにより統一的に見る目を養う。新聞やテレビ等で報じられる経済記事を正しく理解する能力が身につける。
各回のテーマ	
第 1 週 産業と所得 第 2 週 所得分配と社会保障 第 3 週 家計の消費と貯蓄 第 4 週 労働と所得の稼得 第 5 週 所得階層と失業 第 6 週 企業行動と利潤 第 7 週 企業の投資行動と景気循環 第 8 週 経済の原動機としての投資の役割 第 9 週 政府の役割と税金の仕組み 第 10 週 政府の行動と経済成長 第 11 週 経済の血液としての貨幣の役割 第 12 週 中央銀行と民間金融機関の関係 第 13 週 金利のメカニズム 第 14 週 貿易と国際収支 第 15 週 為替レートと物価	
成績評価方法	レポート評価点 50 点（計 5 回のレポートを課す）、 学期末に行う筆記試験の評価点 50 点、 合計 100 点満点
教科書	山崎好裕著『目からウロコの経済学入門』（ミネルヴァ書房）
参考書	矢口和宏・坂本直樹編著『経済学概論』（株式会社みらい）
備考	日頃インターネットのニュースでよいから、世の中でどういうことが起きているかをウォッチする習慣を身につけておくこと。できれば新聞も読んでほしい。そうすれば自ずと社会人としての常識が身につく。

科目名			担当者	
英語表現			馬内 里美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	目的：福祉・介護領域の学習に関連した英文学習による英語力全般の強化 目標：必要な情報を読み取る読解技術の修得 介護・福祉に関する語彙力の修得			
授業の概要 達成課題	福祉・介護に関する具体的な話題を扱う英文を通して、主に次のことを行う。 ・体系的な語彙力の習得 ・訳読に頼らず必要な情報を探し出し、内容理解を目指す ・全体の内容を把握したうえで、英文を正確に読む			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	コミュニケーション	トピックセンテンスの理解・語彙解説		
第 2 週	コミュニケーション	語彙チェック 英文解説		
第 3 週	介護の 4 つの原則	トピックセンテンスの理解・語彙解説		
第 4 週	介護の 4 つの原則	語彙チェック 英文解説		
第 5 週	補助器具の使用	トピックセンテンスの理解・語彙解説		
第 6 週	補助器具使用上の注意点	語彙チェック 英文解説		
第 7 週	介護における食事	トピックセンテンスの理解・語彙解説		
第 8 週	食事介護の注意点	語彙チェック 英文解説		
第 9 週	排せつ介助	トピックセンテンスの理解・語彙解説		
第 10 週	排せつ介助の注意点	語彙チェック 英文解説		
第 11 週	入浴介助	トピックセンテンスの理解・語彙解説		
第 12 週	入浴介助の注意点	語彙チェック 英文解説		
第 13 週	着衣・身づくろいの意義	トピックセンテンスの理解・語彙解説		
第 14 週	着衣・身づくろい介助の注意点	語彙チェック 英文解説		
第 15 週	まとめ			
成績評価方法	各課の練習問題	35%		
	各課の小テスト	35%		
	期末試験	30%		
教科書	「A Helping Hand 福祉・介護系学生のための総合英語」清水雅子（南雲堂）			
参考書	プリント適宜配布			
備考	英和辞書（電子辞書可）を持参すること			

科目名			担当者	
健康科学			森田 清美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	健康であることの価値は十分理解していても、若い時期などは自己管理については無頓着な場合が多い。体力低下や運動不足、偏食により健康が阻害されていると実感していながらも、どんな運動が効果的なのか、その方法がわからないという声をよく聞く。 そこで、本講義では、今後必要となる自己の健康管理方法の一つである運動について学び、健康づくりのための基本的な知識の理解と生活習慣の改善、良い生活習慣の実践について学ぶ。
授業の概要 達成 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病、メタボリックシンドロームについて理解し運動による予防について理解する。</li> <li>健康診断や形態測定の結果を確認し、自身の健康づくりの必要性に気づく。</li> <li>個々の目的に合わせた健康づくりプログラムを作成・実践できるようになる。</li> </ul>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス 第 2 週 現代人の生活習慣と健康状態 第 3 週 生活習慣病とメタボリックシンドローム 第 4 週 形態測定、体力測定 第 5 週 国民健康づくり運動（健康日本 21） 第 6 週 国民健康づくり運動（健康日本 21） 第 7 週 国民健康づくり運動（健康日本 21） 第 8 週 エクササイズガイド、食事バランスガイドについて 第 9 週 健康づくりを目的とする運動について 第 10 週 運動処方プロセス 第 11 週 健康づくりプログラムの作成 第 12 週 健康づくりプログラムの作成 第 13 週 健康づくりプログラムの作成 第 14 週 課題発表 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	試験 70%、課題発表 30%
教科書	適宜プリント、資料を配布する
参考書	
備考	毎回授業時に前授業の復習を行う。また、授業内容から演習問題・課題発表を課す。教科書、参考資料などでの予習、復習を欠かさないこと。

科目名			担当者	
健康スポーツ実習（レクリエーションワーク含む）			森田 清美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	実技	4 5 時間	必修 1 単位	無

授業の目的と到達目標	体力や年齢、目的に応じてスポーツを楽しむように様々なスポーツを体験し、ライフスタイルに合わせたルールや道具の改良をアレンジしながら生涯スポーツに慣れ親しむ基礎的能力を身に付けることを目標とする。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツやニュースポーツを体験し、楽しさや面白さ、効果に気づく。</li> <li>・個人・対人・集団などの競技の特性を知り、対象者に応じたルールの道具の改良をして楽しむことができる。</li> <li>・ルールの説明やアレンジした楽しみ方を説明することができる。</li> </ul>
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>	
第 1 週 ガイダンス、形態測定 第 2 週 体力測定 第 3 週 ウォーキング 第 4 週 ポールウォーキング 第 5 週 クップ/モルック 第 6 週 バトミントン 第 7 週 バレーボール 第 8 週 バスケットボール 第 9 週 卓球 第 10 週 ターゲットバドゴルフ 第 11 週 ユニカール/シャフルボード 第 12 週 キンボール 第 13 週 インディアカ 第 14 週 アルティメット 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	授業中のゲームの遂行や準備に対する積極的な態度などによる評価 60% 実技内評価・課題レポート 40%
教科書	
参考書	ビジュアルスポーツ小百科 大修館書店
備考	実技科目であるのでジャージと体育館シューズ準備すること。 毎回レポートを作成して、授業終了後に提出してもらいます。

科目名			担当者	
人体の構造と機能及び疾病			金山 岳夫	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>社会福祉士として必要な知識（人体の部位、診断名など）の理解を目的とする。人体を構成する筋骨格、器官などの仕組みや働きについて学び、生命のいとなみを理解する。</p> <p>※医療機関に勤務し医師免許を有する教員が、身体の構造と機能について講義する。</p>
授業の概要達成課題	<p>身体を医学的に理解するために必要な、基盤となるからだの構造と機能を学ぶ。総論では「ヒトの身体を概観する」を学び、各論として「生命活動を営むしくみ」、「働き活動するしくみ」、「再生・修復、種の保存、老化などのしくみ」を学ぶ。</p>

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第 1 週 授業概要、総論・人体の構成、小テスト
- 第 2 週 骨格系、筋系
- 第 3 週 体液、血液
- 第 4 週 体、循環器系
- 第 5 週 対循環・血液の成分、呼吸器系
- 第 6 週 消化器系、まとめ・小テスト
- 第 7 週 泌尿生殖器、内分泌腺
- 第 8 週 神経系、まとめ
- 第 9 週 感覚器系
- 第 10 週 消化器系
- 第 11 週 腎臓1、まとめ・小テスト
- 第 12 週 腎臓2、遺伝子
- 第 13 週 検査総論、検査・生化学検査、小テスト
- 第 14 週 生体検査、小テスト
- 第 15 週 病理検査、まとめ

成績評価方法	・定期試験による評価
教科書	・最新医療秘書講座2「からだの構造と機能」 メジカルフレンド社 診療情報管理士テキストⅠ 日本病院会
参考書	
備考	

科目名			担当者	
心理学理論と心理的支援			坂本 一真	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、人間の知覚、記憶、学習、発達、社会的認知等、心理学の基礎的な理論を学び、人間についての理解を深めることを目的とする。また、心理的視点から福祉実践を捉え、心理的支援に関する技法を学ぶことを目標とする。</p> <p>※公認心理師・臨床心理士としての相談援助（教育・医療の分野）の経験を持つ教員が、心理学概論及び心理的支援についての授業を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>心理学に関する全般的な知識を習得する。グループワークや模擬体験を通して、自己理解・他社理解を深める。小レポートによる知識の定着を図る。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	心理学とは	第 16 週	人間関係と集団	
第 2 週	〃	第 17 週	〃	
第 3 週	性格	第 18 週	対人交流とコミュニケーション	
第 4 週	〃	第 19 週	〃	
第 5 週	感情	第 20 週	発達	
第 6 週	〃	第 21 週	〃	
第 7 週	欲求・動機づけと行動	第 22 週	〃	
第 8 週	〃	第 23 週	〃	
第 9 週	感覚・知覚・認知	第 24 週	適応とストレス	
第 10 週	〃	第 25 週	〃	
第 11 週	学習・記憶	第 26 週	面接・見立て・心理療法	
第 12 週	〃	第 27 週	〃	
第 13 週	知能・創造性・思考	第 28 週	〃	
第 14 週	〃	第 29 週	心と脳	
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ	
成績評価方法	<p>小レポート (50%) 定期試験による評価 (50%)</p>			
教科書	<p>社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会福祉士養成講座② 心理学理論と心理的支援』 中央法規</p>			
参考書	<p>必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する</p>			
備考				

科目名	担当者
-----	-----



社会理論と社会システム			伊藤 利恵	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、社会学の考え方やその対象、社会問題等について幅広く学習する。具体的には、われわれの生きる現代社会の特質、家族や地域社会の特徴を具体的・実証的に理解するとともに、現代社会における重要な社会問題を取り上げ、核家族化や小家族化の進展、家族機能の展開の問題など、社会福祉を学ぶ者にとって重要なテーマについて考察する。</p>
授業の概要達成課題	<p>本科目では、社会学の考え方やその対象、社会問題等について幅広く学習する。具体的には、われわれの生きる現代社会の特質、家族や地域社会の特徴を具体的・実証的に理解するとともに、現代社会における重要な社会問題を取り上げ、核家族化や小家族化の進展、家族機能の展開の問題など、社会福祉を学ぶ者にとって重要なテーマについて考察する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	社会学とは
第 2 週	社会システム
第 3 週	法と社会システム
第 4 週	経済と社会システム
第 5 週	社会変動・人口からみた社会変動
第 6 週	生活の理解① (生活のとらえ方)
第 7 週	生活の理解② (家族)
第 8 週	生活の理解③ (地域)
第 9 週	社会的行為と社会的役割
第 10 週	社会集団と組織
第 11 週	社会的ジレンマ
第 12 週	社会関係資本と社会的連帯
第 13 週	社会問題の捉え方
第 14 週	日本社会と社会問題
第 15 週	共生社会と権利
成績評価方法	小テスト (30%)、定期試験 (70%) による評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座③社会理論と社会システムー社会学』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
現代社会と福祉			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などに学習する。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持つ教員が、現代社会と福祉の授業を指導する。</p>			
授業の基礎編達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉に関する基礎知識が理解できる。</li> <li>・ 社会福祉の役割や機能が理解できる。</li> <li>・ 社会福祉の法体系と運営実施体制が理解できる。</li> <li>・ 社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動が理解できる。</li> <li>・ 日本の社会福祉の動向と今後の課題が理解できる。</li> </ul>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	現代の福祉と福祉政策	第 16 週	福祉政策の関連領域① (所得)	
第 2 週	社会福祉の専門職	第 17 週	福祉政策の関連領域② (保健医療・教育)	
第 3 週	市場の論理と倫理	第 18 週	福祉政策の関連領域③ (住宅・雇用)	
第 4 週	福祉の思想と哲学	第 19 週	福祉政策の関連領域④ (人権擁護)	
第 5 週	福祉政策の理論と実際① (社会政策と福祉政策)	第 20 週	社会福祉制度の体系	
第 6 週	福祉政策の理論と実際② (福祉政策の基盤)	第 21 週	公的扶助と福祉サービス	
第 7 週	福祉政策の発展過程① (近代化)	第 22 週	福祉サービスの供給	
第 8 週	福祉政策の発展過程② (戦後と高度経済成長期)	第 23 週	福祉サービスの供給と利用の過程	
第 9 週	福祉政策の進展① (福祉元年以降)	第 24 週	福祉サービスと援助方法	
第 10 週	福祉政策の進展② (1990 年第以降)	第 25 週	地域福祉への展開	
第 11 週	福祉政策におけるニーズの概念	第 26 週	現代社会の変化と福祉政策	
第 12 週	福祉政策における資源の概念	第 27 週	現代包摂的福祉政策への展開	
第 13 週	福祉政策の主体(個人, 家族, 市場, 政府, 地域)	第 28 週	福祉政策の国際比較 (欧米諸国)	
第 14 週	福祉政策の手法	第 29 週	福祉政策の国際比較 (東アジア諸国)	
第 15 週	政策決定過程・評価	第 30 週	まとめ	
成績評価方法	レポート課題及び小テスト等による評価 30%、学期末定期試験による評価 70%により総合的に評価する			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座④現代社会と福祉 - 社会福祉原論-』中央法規出版			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する			
備考				

科目名			担当者	
社会調査の基礎			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、社会調査の基本的性格を考察し、その代表的な調査技法である統計調査と事例調査の基本原則と方法、手順について学ぶ。また、標本抽出の方法や、調査結果の整理や分析方法、質問紙、調査票の作成手順、観察や面接の技法といった具体的な方法論を学習する。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持つ教員が、社会調査の基礎の授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>本科目では、社会調査の基本的性格を考察し、その代表的な調査技法である統計調査と事例調査の基本原則と方法、手順について学ぶ。また、標本抽出の方法や、調査結果の整理や分析方法、質問紙、調査票の作成手順、観察や面接の技法といった具体的な方法論を学習する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	社会調査の基礎
第 2 週	社会調査の歴史的展開
第 3 週	社会調査の概要（意義と目的）
第 4 週	社会調査の対象と方法
第 5 週	社会調査の意義と目的
第 6 週	量的調査の方法①（特徴と種類）
第 7 週	量的調査の方法②（調査設計と作成方法）
第 8 週	量的調査の方法③（サンプリングと実査）
第 9 週	量的調査の方法④（集計とデータ解析）
第 10 週	質的調査の方法①（特徴と種類）
第 11 週	質的調査の方法②（調査設計と作成方法）
第 12 週	質的調査の方法③（調査実施とデータ収集）
第 13 週	質的調査の方法④（データの整理、分析、解析）
第 14 週	量的・質的調査の方法（発表と報告）
第 15 週	社会調査における倫理と個人情報
成績評価方法	レポート課題及び小テスト等による評価 30%、学期末定期試験による評価 70%により総合的に評価する
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会福祉士養成講座⑤社会調査の基礎』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
相談援助の基盤と専門職			板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>社会福祉実践の方法、方法を支える理念を明確にしなが、その体系、技法の習得を目指して授業を進める。さらに援助専門職者に求められる共通基盤、価値・倫理について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉士の意義と役割について理解できる。</li> <li>・ 相談援助の理念について理解できる。</li> <li>・ 相談援助に係る専門職の概念と専門職倫理について理解できる。</li> </ul> <p>※社会福祉士として相談援助業務の実務経験のある教員が、相談援助の基盤と専門職について講義する。</p>
授業の基礎編達成課題	日本における相談援助専門職の社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義、さらに他の対人援助専門職との相互連携のあり方を考察する。ソーシャルワークの基礎から学び、実践のための重要課題について学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	社会福祉士の定義と役割
第 3 週	法制度成立の背景と見直し
第 4 週	社会福祉士の専門性
第 5 週	精神保健福祉士の定義と役割
第 6 週	相談援助の概念と範囲①
第 7 週	相談援助の概念と範囲②
第 8 週	援助の歴史①
第 9 週	援助の歴史②
第 10 週	援助の歴史③
第 11 週	相談援助の理念①
第 12 週	相談援助の理念②
第 13 週	相談援助の理念③
第 14 週	相談援助の理念④
第 15 週	中間まとめ
第 16 週	専門職の職業倫理①
第 17 週	専門職の職業倫理②
第 18 週	専門職の職業倫理③
第 19 週	倫理的ジレンマ①
第 20 週	倫理的ジレンマ②
第 21 週	倫理的ジレンマ③
第 22 週	総合的かつ包括的な相談援助①
第 23 週	総合的かつ包括的な相談援助②
第 24 週	総合的かつ包括的な相談援助③
第 25 週	総合的かつ包括的な相談援助④
第 26 週	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①
第 27 週	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②
第 28 週	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①
第 29 週	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②
第 30 週	まとめ
成績評価方法	小テスト・レポート課題 (30%)、定期試験 (70%) による評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座⑥相談援助の基盤と専門職』中央法規出版
参考書	随時紹介する
備考	

科目名			担当者	
相談援助の理論と方法 I			関谷 友里	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>ソーシャルワーカーに求められる相談援助について基本的な知識を学ぶ。相談援助を構造的に理解し、展開過程におけるさまざまな方法を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談援助の基礎的な概念を理解できる。</li> <li>・ 人と環境の交互作用について理解できる。</li> <li>・ 相談援助の過程と、それにかかわる知識や技術について理解できる。</li> </ul>			
授業の基礎編達成課題	<p>社会福祉における相談援助とは、クライアントの相談に応じ、助言、指導、連絡、調整などを行うことであり、サービスを利用しようとするクライアントがどのような困難や生活上のニーズを抱えているのかを把握することから始まる。本講義では、ソーシャルワーカーが行う相談援助について、人と環境の交互作用や援助関係の形成方法とともに、相談援助の一連の展開過程について学び、ソーシャルワークの基本的な視点を習得する。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	相談援助のための契約の意義と目的	
第 2 週	相談援助とは何か	第 17 週	契約の方法と留意点	
第 3 週	相談援助の機能と構造	第 18 週	ソーシャルワークにおけるアセスメント① 方法とアセスメントツール	
第 4 週	人と環境の交互作用①一般システム論	第 19 週	ソーシャルワークにおけるアセスメント② アセスメントと情報活用	
第 5 週	人と環境の交互作用②サイバネティクス	第 20 週	相談援助の介入①加入の意義と目的	
第 6 週	相談援助における援助関係	第 21 週	相談援助の介入②介入の方法と留意点	
第 7 週	相談援助の展開過程①インテーク	第 22 週	相談援助と経過観察	
第 8 週	相談援助の展開過程②アセスメント	第 23 週	相談援助における面接①目的	
第 9 週	相談援助の展開過程③支援の計画（プランニング）	第 24 週	相談援助における面接②展開	
第 10 週	相談援助の展開過程④支援の実施	第 25 週	相談援助における面接③コミュニケーション	
第 11 週	相談援助の展開過程⑤援助の評価	第 26 週	相談援助における面接④面接の形態	
第 12 週	相談援助の展開過程⑥モニタリングとアフターケア	第 27 週	記録①意義	
第 13 週	援助の効果測定	第 28 週	記録②方法と活用	
第 14 週	アウトリーチの意義と方法	第 29 週	相談援助のための交渉の技術	
第 15 週	中間まとめ	第 30 週	まとめ	
成績評価方法	小テスト（30%）、定期試験（70%）による評価			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法 I』中央法規出版			
参考書	随時紹介する			
備考				

科目名			担当者	
相談援助の理論と方法Ⅱ			板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。相談援助における事例分析、意義や方法について理解する。相談援助の実際について理解する。</p> <p>※社会福祉士として相談援助業務の実務経験のある教員が、相談援助の理論と方法Ⅱの授業を指導する。</p>																																																												
授業の基礎編達成課題	<p>相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。相談援助における事例分析、意義や方法について理解する。相談援助の実際について理解する。</p>																																																												
<p><b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <table border="0"> <tbody> <tr> <td>第 1 週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第 16 週</td> <td>個人情報の保護 ①運用について</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>相談援助における対象の理解 ①個人・家族</td> <td>第 17 週</td> <td>個人情報の保護 ②意義と留意点</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>相談援助における対象の理解 ②グループ</td> <td>第 18 週</td> <td>IT活用 ①意義と留意点</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>相談援助における対象の理解 ③地域</td> <td>第 19 週</td> <td>IT活用 ②支援概要</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>ケースマネジメントとケアマネジメント ①意義目的</td> <td>第 20 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ①治療モデル</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>ケースマネジメントとケアマネジメント ②方法</td> <td>第 21 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ②生活モデル</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>コーディネーションの意義と目的、方法</td> <td>第 22 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ③ストレングスモデル</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>ネットワークの意義と目的、方法</td> <td>第 23 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ④心理社会的アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>グループを活用した相談援助</td> <td>第 24 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ⑤機能的アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>社会資源の活用・調整・開発の意義と目的</td> <td>第 25 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ⑥問題解決アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>スーパービジョンの意義と目的、方法</td> <td>第 26 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ⑦危機介入アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>事例研究</td> <td>第 27 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ⑧行動変容アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>事例分析</td> <td>第 28 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ⑨エンパワメントアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>相談援助の実際</td> <td>第 29 週</td> <td>様々な実践モデルとアプローチ ⑩ナラティブアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>まとめ</td> <td>第 30 週</td> <td>まとめ</td> </tr> </tbody> </table>		第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	個人情報の保護 ①運用について	第 2 週	相談援助における対象の理解 ①個人・家族	第 17 週	個人情報の保護 ②意義と留意点	第 3 週	相談援助における対象の理解 ②グループ	第 18 週	IT活用 ①意義と留意点	第 4 週	相談援助における対象の理解 ③地域	第 19 週	IT活用 ②支援概要	第 5 週	ケースマネジメントとケアマネジメント ①意義目的	第 20 週	様々な実践モデルとアプローチ ①治療モデル	第 6 週	ケースマネジメントとケアマネジメント ②方法	第 21 週	様々な実践モデルとアプローチ ②生活モデル	第 7 週	コーディネーションの意義と目的、方法	第 22 週	様々な実践モデルとアプローチ ③ストレングスモデル	第 8 週	ネットワークの意義と目的、方法	第 23 週	様々な実践モデルとアプローチ ④心理社会的アプローチ	第 9 週	グループを活用した相談援助	第 24 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑤機能的アプローチ	第 10 週	社会資源の活用・調整・開発の意義と目的	第 25 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑥問題解決アプローチ	第 11 週	スーパービジョンの意義と目的、方法	第 26 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑦危機介入アプローチ	第 12 週	事例研究	第 27 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑧行動変容アプローチ	第 13 週	事例分析	第 28 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑨エンパワメントアプローチ	第 14 週	相談援助の実際	第 29 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑩ナラティブアプローチ	第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ
第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	個人情報の保護 ①運用について																																																										
第 2 週	相談援助における対象の理解 ①個人・家族	第 17 週	個人情報の保護 ②意義と留意点																																																										
第 3 週	相談援助における対象の理解 ②グループ	第 18 週	IT活用 ①意義と留意点																																																										
第 4 週	相談援助における対象の理解 ③地域	第 19 週	IT活用 ②支援概要																																																										
第 5 週	ケースマネジメントとケアマネジメント ①意義目的	第 20 週	様々な実践モデルとアプローチ ①治療モデル																																																										
第 6 週	ケースマネジメントとケアマネジメント ②方法	第 21 週	様々な実践モデルとアプローチ ②生活モデル																																																										
第 7 週	コーディネーションの意義と目的、方法	第 22 週	様々な実践モデルとアプローチ ③ストレングスモデル																																																										
第 8 週	ネットワークの意義と目的、方法	第 23 週	様々な実践モデルとアプローチ ④心理社会的アプローチ																																																										
第 9 週	グループを活用した相談援助	第 24 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑤機能的アプローチ																																																										
第 10 週	社会資源の活用・調整・開発の意義と目的	第 25 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑥問題解決アプローチ																																																										
第 11 週	スーパービジョンの意義と目的、方法	第 26 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑦危機介入アプローチ																																																										
第 12 週	事例研究	第 27 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑧行動変容アプローチ																																																										
第 13 週	事例分析	第 28 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑨エンパワメントアプローチ																																																										
第 14 週	相談援助の実際	第 29 週	様々な実践モデルとアプローチ ⑩ナラティブアプローチ																																																										
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ																																																										
成績評価方法	小テスト・レポート課題 (30%)、定期試験 (70%) による評価																																																												
教科書	相談援助の理論と方法Ⅱ／新・社会福祉士養成講座第 8 巻／社会福祉士養成講座編集委員会編集／中央法規出版																																																												
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する																																																												
備考																																																													

科目名			担当者	
福祉行財政と福祉計画			伊藤 利恵	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	本科目では、現代の社会福祉サービスや支援は国が基本的な政策の方向を示すものの、市町村をベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民および事業者が参加して計画立案に基づいて実施することが求められる。このことから、社会福祉の法制度の展開や福祉計画との関連や、国と地方自治体との関係、行政の仕組み、財政の仕組みについて、また、福祉計画の意義とその技法について学習する。
授業の概要 達成課題	本科目では、現代の社会福祉サービスや支援は国が基本的な政策の方向を示すものの、市町村をベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民および事業者が参加して計画立案に基づいて実施することが求められる。このことから、社会福祉の法制度の展開や福祉計画との関連や、国と地方自治体との関係、行政の仕組み、財政の仕組みについて、また、福祉計画の意義とその技法について学習する。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	福祉行財政と福祉計画①福祉と制度
第2週	福祉行財政と福祉計画②福祉法制度の展開、福祉計画の概要
第3週	福祉行政①行政の骨格、社会福祉と法制度
第4週	福祉行政②福祉行政の組織、社会福祉基礎構造
第5週	福祉財政①財政と社会福祉、一般会計予算と社会保障関係費の動向、地方自治体の財政と民生費の動向
第6週	福祉財政②民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担
第7週	福祉行政の組織・団体と専門職の役割①社会福祉基礎構造改革、相談過程、相談体制
第8週	福祉行政の組織・団体と専門職の役割②専門諸機関、地域の相談システム、専門職
第9週	福祉計画の目的と意義①福祉計画の目的と意義とは、福祉援助の現場から福祉計画へ
第10週	福祉計画の目的と意義②計画のサイクルと福祉援助の現場
第11週	福祉計画の理論と技法①福祉計画の基本的視点、福祉計画の仮定と留意点
第12週	福祉計画の理論と技法②福祉計画におけるニーズ把握、福祉計画における評価
第13週	福祉計画の理論と技法③福祉計画における住民参加
第14週	福祉計画の実際①福祉計画の事例研究の視点、老人福祉計画・介護保険事業計画
第15週	福祉計画の実際②障害者計画・障害者福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画

成績評価方法	小テスト（30%）、定期試験（70%）による評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑩福祉行財政と福祉計画』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
福祉サービスの組織と経営			伊藤 利恵	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>各種福祉サービスや給付において、欠くべからざる担い手である社会福祉サービス提供事業者に関する法制度を概観し、企業の組織論、経営理論、財務会計等の特色と比較しながら、社会福祉サービスにおける経営管理の実態と求められる今日的な経営管理について学び、視野を広め、福祉従事者としての資質を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会福祉サービス提供事業者の法制上の特色を理解し、説明できるようになる。</li> <li>○ 福祉サービス提供事業者の経営管理の基礎理論を学び、一般論について説明できる。</li> <li>○ 各論としてサービス管理、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理について説明できる。</li> </ul> <p>※幼稚園園長・幼稚園型認定こども園園長として幼稚園及び幼稚園型認定こども園の組織運営及び経営の経験を持つ教員が、福祉サービスの経営に関わる講義授業を担当する。</p>																																			
授業の概要 達成課題	<p>福祉サービスの理念、社会福祉サービス提供事業者の法制、特に福祉サービスに関わる社会福祉法人の現状と役割、その経営に係る基礎理論、サービス管理、人事・労務管理の在り方、財務会計の考え方、情報管理の状況、福祉サービス利用者や地域社会の現況について述べる。</p> <p>社会福祉サービスが良質で、何時でも、何処でも、誰でもが安心して利用できる国家であるために、社会福祉サービス提供事業者とそこで働く福祉従事者の役割は重要、欠くべからざるものであり、現在の福祉サービス提供システムの課題を理解し、改革への発言ができる。</p>																																			
【各回のテーマ】	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>(社会福祉サービスにおける組織と経営)</td> <td>(サービス管理)</td> </tr> <tr> <td>第1週 福祉サービスにおける組織・経営</td> <td>第16週 サービスマネジメント(1)</td> </tr> <tr> <td>第2週 福祉サービスと制度 (福祉サービスにかかわる組織や団体)</td> <td>第17週 サービスマネジメント(2)</td> </tr> <tr> <td>第3週 法人とは(1)</td> <td>第18週 サービスの質の評価</td> </tr> <tr> <td>第4週 法人とは(2)</td> <td>第19週 苦情対応とリスクマネジメント</td> </tr> <tr> <td>第5週 社会福祉法人(1)</td> <td>第20週 サービス提供のあり方の方向性 (人事管理と労務管理)</td> </tr> <tr> <td>第6週 社会福祉法人(2)</td> <td>第21週 人事・労務管理</td> </tr> <tr> <td>第7週 特定非営利活動法人(1)</td> <td>第22週 労使関係管理</td> </tr> <tr> <td>第8週 特定非営利活動法人(2)</td> <td>第23週 人材育成 (財務管理と会計管理)</td> </tr> <tr> <td>第9週 その他の組織や団体 (福祉サービスの組織と経営の基礎理論)</td> <td>第24週 経営と財務管理</td> </tr> <tr> <td>第10週 組織と経営における戦略と事業計画</td> <td>第25週 社会福祉法人の会計制度(1)</td> </tr> <tr> <td>第11週 福祉サービス組織</td> <td>第26週 社会福祉法人の会計制度(2) (情報管理)</td> </tr> <tr> <td>第12週 管理運営の基礎理論</td> <td>第27週 事業経営に必要な情報管理</td> </tr> <tr> <td>第13週 集団の力学に関する基礎理論</td> <td>第28週 個人情報の保護と情報開示・透明性の確保</td> </tr> <tr> <td>第14週 リーダーシップに関する基礎理論</td> <td>第29週 介護サービス情報の公表制度</td> </tr> <tr> <td>第15週 まとめ</td> <td>第30週 まとめ</td> </tr> </tbody> </table>				(社会福祉サービスにおける組織と経営)	(サービス管理)	第1週 福祉サービスにおける組織・経営	第16週 サービスマネジメント(1)	第2週 福祉サービスと制度 (福祉サービスにかかわる組織や団体)	第17週 サービスマネジメント(2)	第3週 法人とは(1)	第18週 サービスの質の評価	第4週 法人とは(2)	第19週 苦情対応とリスクマネジメント	第5週 社会福祉法人(1)	第20週 サービス提供のあり方の方向性 (人事管理と労務管理)	第6週 社会福祉法人(2)	第21週 人事・労務管理	第7週 特定非営利活動法人(1)	第22週 労使関係管理	第8週 特定非営利活動法人(2)	第23週 人材育成 (財務管理と会計管理)	第9週 その他の組織や団体 (福祉サービスの組織と経営の基礎理論)	第24週 経営と財務管理	第10週 組織と経営における戦略と事業計画	第25週 社会福祉法人の会計制度(1)	第11週 福祉サービス組織	第26週 社会福祉法人の会計制度(2) (情報管理)	第12週 管理運営の基礎理論	第27週 事業経営に必要な情報管理	第13週 集団の力学に関する基礎理論	第28週 個人情報の保護と情報開示・透明性の確保	第14週 リーダーシップに関する基礎理論	第29週 介護サービス情報の公表制度	第15週 まとめ	第30週 まとめ
(社会福祉サービスにおける組織と経営)	(サービス管理)																																			
第1週 福祉サービスにおける組織・経営	第16週 サービスマネジメント(1)																																			
第2週 福祉サービスと制度 (福祉サービスにかかわる組織や団体)	第17週 サービスマネジメント(2)																																			
第3週 法人とは(1)	第18週 サービスの質の評価																																			
第4週 法人とは(2)	第19週 苦情対応とリスクマネジメント																																			
第5週 社会福祉法人(1)	第20週 サービス提供のあり方の方向性 (人事管理と労務管理)																																			
第6週 社会福祉法人(2)	第21週 人事・労務管理																																			
第7週 特定非営利活動法人(1)	第22週 労使関係管理																																			
第8週 特定非営利活動法人(2)	第23週 人材育成 (財務管理と会計管理)																																			
第9週 その他の組織や団体 (福祉サービスの組織と経営の基礎理論)	第24週 経営と財務管理																																			
第10週 組織と経営における戦略と事業計画	第25週 社会福祉法人の会計制度(1)																																			
第11週 福祉サービス組織	第26週 社会福祉法人の会計制度(2) (情報管理)																																			
第12週 管理運営の基礎理論	第27週 事業経営に必要な情報管理																																			
第13週 集団の力学に関する基礎理論	第28週 個人情報の保護と情報開示・透明性の確保																																			
第14週 リーダーシップに関する基礎理論	第29週 介護サービス情報の公表制度																																			
第15週 まとめ	第30週 まとめ																																			
成績評価方法	小テスト (30%)、定期試験 (70%) による評価																																			
教科書	新社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規																																			
参考書																																				
備考	教科書にあらかじめ目を通して授業に出席すること、質問を積極的に行うこと																																			



科目名			担当者	
社会保障			吉田 裕人	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	無

授業の目的と到達目標	本講義では、我が国の社会保障制度全体を概観したうえで、少子高齢化時代を迎えた我が国において対応していかなければならない課題を整理する。また、社会保障の理念や仕組みに加えて年金・医療・介護保険などの各制度の詳細を学習する。そのことにより、社会福祉の実践現場において必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することを目標とする。
授業の基礎編達成課題	本講義では、我が国の社会保障制度全体を概観したうえで、少子高齢化時代を迎えた我が国において対応していかなければならない課題を整理する。また、社会保障の理念や仕組みに加えて年金・医療・介護保険などの各制度の詳細を学習する。そのことにより、社会福祉士国家試験に対応でき、結果として社会福祉の実践現場において必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することを本講義の達成課題とする。

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	私たちの生活と社会保障	第16週	介護保険制度①（制度創設と経緯）
第2週	社会保障の理念と機能	第17週	介護保険制度②（介護保険制度の概要）
第3週	欧米における社会保障の歴史的展開	第18週	介護保険制度③（介護保険制度の動向）
第4週	日本における社会保障の歴史的展開	第19週	労働保険制度①（制度の沿革と概要）
第5週	社会保障の構造①（社会保険の構造）	第20週	労働保険制度②（労働者災害補償保険）
第6週	社会保障の構造②（社会扶助の構造）	第21週	労働保険制度③（労働保険制度の動向）
第7週	社会保障の財源①（社会保障給付費と財源構成）	第22週	社会福祉制度①（児童福祉、障害者福祉）
第8週	社会保障の財源②（社会保障と経済）	第23週	社会福祉制度②（母子・寡婦福祉）
第9週	年金保険制度①（制度の沿革と概要）	第24週	社会福祉制度③（高齢者福祉）
第10週	年金保険制度②（国民年金、厚生年金、共済年金）	第25週	民間保険（企業年金と確定拠出型年金）
第11週	年金保険制度③（年金をめぐる最近の動向）	第26週	社会保障の課題①（少子高齢化）
第12週	医療保険制度①（制度の沿革と概要）	第27週	社会保障の課題②（労働環境の変化）
第13週	医療保険制度②（健康保険と国民健康保険）	第28週	福祉サービスの評価のシステム
第14週	高齢者の医療の確保に関する法律	第29週	諸外国の社会保障制度①（欧米の社会保障）
第15週	医療をめぐる最近の動向	第30週	諸外国の社会保障制度②（東アジア）

成績評価方法	定期試験（90%）、受講態度（10%）による評価
教科書	社会保障/新・社会福祉士養成講座 12 第6版 社会福祉士養成講座編集委員会 編/中央法規出版
参考書	随時資料を配布する他、視聴覚教材などを使用する。
備考	

科目名			担当者	
高齢者に対する支援と介護保険制度			渡辺 英隆 阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>急速な高齢化の進展に伴い21世紀半ばには3人に1人が65歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえ、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学習し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持つ教員が、高齢者に対する支援と介護保険制度の授業を指導する。</p>			
授業の基礎編達成課題	<p>急速な高齢化の進展に伴い21世紀半ばには3人に1人が65歳以上という超高齢社会が到来することが予想される。このような現状をふまえ、現代社会における高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学習し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第1週	高齢者の特性①社会的理解・身体的理解	第16週	介護保険のサービス体系①居宅サービス	
第2週	高齢者の特性②精神的理解・総合的理解	第17週	介護保険のサービス体系②施設サービス	
第3週	少子高齢社会の特徴	第18週	介護保険のサービス体系③介護予防サービス	
第4週	高齢者を取り巻く諸問題	第19週	介護保険のサービス体系④地域密着サービス	
第5週	高齢者の歴史	第20週	高齢者支援の方法と実際	
第6週	高齢者保健福祉の発展と法体系	第21週	高齢者を支援する組織と役割	
第7週	老人福祉法	第22週	専門職の役割と実際	
第8週	高齢者の医療の確保に関する法律	第23週	介護過程	
第9週	高齢者虐待防止法	第24週	介護各論①自立に向けた介護・家事の介護	
第10週	その他の関係法規	第25週	介護各論②家事における自立支援	
第11週	介護保険法①目的と理念	第26週	介護各論③身支度・移動・睡眠の介護	
第12週	介護保険法②保険財政	第27週	介護各論④食事・口腔衛生の介護	
第13週	介護保険法③保険者と被保険者	第28週	介護各論⑤入浴・清潔・排泄の介護	
第14週	介護保険法④要介護認定の仕組みとプロセス	第29週	介護各論⑥認知症ケア	
第15週	介護保険法⑤保険給付と介護報酬	第30週	介護各論⑦終末期ケア	
成績評価方法	レポート課題及び小テスト等による評価 30%、学期末定期試験による評価 70%により総合的に評価する			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編『新・社会新福祉士養成講座⑬高齢者に対する支援と介護保険制度－高齢者福祉論』中央法規出版			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する			
備考				

科目名			担当者	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度			横山 英史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、障害者福祉の理念と考え方、歴史の変遷、法体系、障害者運動の展開、障害の多様性とニーズ、生活実態など、障害者に関する基礎知識を学習する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法として、障害者総合支援法に基づくサービスの提供ができ、専門職として求められる倫理や価値観を身につけた上で、実際の支援や様々な状況への対応ができるようになることを目標とする。</p> <p>※大学等教育研究機関において教育経験を持つ教員が、障害者に対する支援と障害者自立支援法の授業を指導する。</p>			
授業の基礎編達成課題	<p>本科目では、まず障害者福祉の理念と考え方、歴史の変遷、当事者の生活や統計の実態といった基礎的な知識の習得を目指す。その上で法体系やサービス、関連施策への理解を通じ障害当事者や家族の抱える問題の解決、対応ができることを目指す。また、その前提として当事者や家族との関係づくりや、種々の専門職との連携、チームアプローチができる専門職としての基盤づくりを行う。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害者福祉の現場実践の場で必要となる専門的かつ正確な知識の習得を目標とする。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	障害とは	第16週	地域生活支援事業について	
第2週	障害の概念－ICIDH、ICF－	第17週	障害者総合支援法の動向と課題	
第3週	障害者の実態	第18週	医療、教育との関連	
第4週	障害者福祉の理念（1）	第19週	労働、所得保障、経済的負担の軽減	
第5週	障害者福祉の理念（2）	第20週	障害の概要－知的、精神障害－	
第6週	障害者福祉の変遷	第21週	障害の概要－肢体不自由、視覚、聴覚・言語－	
第7週	障害者福祉の法体系	第22週	ネットワーク、多職種連携、協議会	
第8週	障害者総合支援法の概要	第23週	障害の概要－発達障害、その他－	
第9週	自立支援給付と支給のプロセス	第24週	専門職の概要	
第10週	介護給付について	第25週	事例を通して－VTR学習－	
第11週	訓練等給付について	第26週	援助関係の形成について	
第12週	障害の受容－支援、対応－	第27週	事例を通して－資料－	
第13週	自立支援医療	第28週	人権と対立する思想－優生思想、社会防衛思想	
第14週	補装具－交付の仕組み、概要	第29週	生活環境の改善、福祉のまちづくり	
第15週	障害者の恋愛と性	第30週	まとめ－自立(律)生活に向けて	
成績評価方法	定期試験による評価（70%） 平常点（レポート、講義への参加度：話し合い 30%）			
教科書	障害者に対する支援と障害者自立支援法制度／新・社会新福祉士養成講座⑭／社会福祉士養成講座編集委員会 編／中央法規出版			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する			
備考				

科目名			担当者	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度			鑑 さやか	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>この講義では、子ども家庭福祉施策の概況を念頭に置きつつ、子どもをめぐる社会事情がどのように変化してきているか、また、今後の子ども家庭福祉の方向はどのようなものであるべきかについて、最新の動向を中心に紹介しながら子ども家庭福祉の理念、制度、援助の実際について講義を行う。</p> <p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における子ども観と子どもの権利保障について理解する</li> <li>・子ども家庭福祉の法制度について理解する</li> <li>・子ども家庭福祉援助の実際と課題について理解し、援助活動を行う際に必要な基礎的知識を身につける</li> <li>・子どもと子どもを取り巻く環境を総合的に把握し行動できる感性と行動力、思考力を習得する</li> </ul>			
授業の基礎編達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における子どもの心身の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、子ども家庭福祉の社会的背景について理解する</li> <li>・現代社会における子ども家庭福祉の理念と意義について理解する</li> <li>・子どもと子どもを取り巻く環境の福祉需要の把握方法について理解する</li> <li>・子ども家庭福祉に関する法とサービスの体型の基礎を理解する</li> </ul>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
<p>第1週</p> <p>第2週 子どもと家庭を取り巻く状況</p> <p>第3週 子ども家庭福祉の理念と概念</p> <p>第4週 子ども家庭福祉の権利保障</p> <p>第5週 子ども家庭福祉の歴史的展開①</p> <p>第6週 子ども家庭福祉の歴史的展開②</p> <p>第7週 子ども家庭福祉の歴史的展開③</p> <p>第8週 子ども家庭福祉の法制度①</p> <p>第9週 子ども家庭福祉の法制度②</p> <p>第10週 子ども家庭福祉の実施体制①</p> <p>第11週 子ども家庭福祉の実施体制②</p> <p>第12週 子どもの虐待の現状と福祉サービス</p> <p>第13週 少子化の現状と福祉サービス</p> <p>第14週 子育て支援の現状と福祉サービス</p> <p>第15週 母子保健の現状と福祉サービス 児童相談所の現状と求められる役割</p> <p>第16週 ひとり親家庭の現状と福祉サービス</p> <p>第17週 障害児の現状と福祉サービス</p> <p>第18週 思春期の子どもに対する福祉サービス</p> <p>第19週 非行少年の現状と福祉サービス</p> <p>第20週 子どもの貧困に対する福祉サービス</p> <p>第21週 DVの現状と福祉サービス</p> <p>第22週 社会的養護の現状と福祉サービス</p> <p>第23週 施設ケアの実際と福祉サービス</p> <p>第24週 要保護児童に対する福祉サービス①</p> <p>第25週 要保護児童に対する福祉サービス②</p> <p>第26週 要保護児童に対する福祉サービス③</p> <p>第27週 子ども虐待による死亡事例から学ぶ</p> <p>第28週 子ども家庭福祉領域の援助の実際①</p> <p>第29週 子ども家庭福祉領域の援助の実際②</p> <p>第30週 子ども家庭福祉領域の援助の実際③</p>				
成績評価方法	<p>定期試験 (65%)</p> <p>ミニテスト (20%)</p> <p>受講態度 (15%)</p>			
教科書	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度			
参考書	授業中に紹介する			
備考	特になし			

科目名			担当者	
低所得者に対する支援と生活保護制度			伊藤 利恵	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<p>貧困者救済のために幾多の変遷を経ながら定着をみた我が国の公的扶助制度の柱である生活保護制度の理念と内容、低所得者の支援制度の内容等について理解を深める。</p> <p>○英国、日本等の公的扶助制度の歴史を説明することができる。</p> <p>○生活保護制度の原理、扶助の種類、生活保護基準等の内容と生活保護受給者の動向を説明できる。</p> <p>○低所得者対策と低所得者の動向について説明することができる。</p> <p>○貧困者・低所得者に対する相談援助と自立支援について説明することができる。</p>
授業の概要 達成課題	<p>資本主義経済下における貧困・低所得者の存在する諸事情と社会的排除の歴史、貧困者の救済を目的とする公的扶助制度の歴史、生活保護制度の内容、生活保護の実施体制、近年の生活保護の動向、低所得者対策の概要、貧困・低所得者に対する相談援助と自立支援について理解を深める。</p> <p>貧困・低所得者からの相談に応じ、生活保護の適用や自立支援のために、自ら行動し、問題解決に少しでも近づけるようになる。</p>
【各回のテーマ】	<p>第1週 公的扶助の概念</p> <p>第2週 貧困・低所得者問題と社会的排除</p> <p>第3週 公的扶助制度の歴史</p> <p>第4週 生活保護制度の仕組み（生活保護法）</p> <p>第5週 生活保護制度の仕組み（保護の種類と内容）</p> <p>第6週 生活保護制度の仕組み（被保護者の権利その他）</p> <p>第7週 最低生活保障水準と生活保護基準 1</p> <p>第8週 最低生活保障水準と生活保護基準 2</p> <p>第9週 生活保護の動向</p> <p>第10週 低所得者対策の概要（生活福祉資金貸付制度）</p> <p>第11週 低所得者対策の概要（社会手当制度等）</p> <p>第12週 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体</p> <p>第13週 貧困・低所得者に対する相談援助活動</p> <p>第14週 生活保護における自立支援</p> <p>第15週 まとめ</p>
成績評価方法	小テスト（30%）、定期試験（70%）による評価
教科書	低所得者に対する支援と生活保護制度 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 発行2011年2月1日
参考書	必要に応じてプリント配付
備考	教科書にあらかじめ目を通して授業に出席し、質問を積極的に行うこと

科目名			担当者	
地域福祉の理論と方法			豊田 正利	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>地域の各種社会福祉サービスの提供・給付において、地域社会の参加協力は欠くべからざるものであり、行政サイドの期待は大きい、社会福祉協議会を中心とした地域の社会福祉ニーズ、地域の社会福祉資源の活用・調整・開発、地域の理解と協力を引き出すソーシャルアクション等についての理論を学び、視野を広め、福祉従事者としての資質を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の社会福祉推進のための基礎理論について説明できる。</li> <li>○ 地域の社会福祉サービスに関係する諸組織とその役割について、説明できるようになる。</li> <li>○ 地域の社会福祉協議会スタッフの役割、住民の参画、社会福祉ニーズの把握、地域トータルケアシステム等について説明できる。</li> </ul>
授業の概要 達成課題	<p>地域における社会福祉推進の必要性、基本的な理念、地域住民の参画と福祉教育の重要性、民間組織の役割、各種専門職の役割、社会福祉資源の活用・調整・開発の在り方等について述べる。社会福祉サービスが良質で、何時でも、何処でも、誰でもが安心して利用できる地域社会であるために、社会福祉サービスの提供に関係し、そこで多様な問題の解決のために働く社会福祉従事者の重要性、現在の諸課題を理解し、課題可決方法を見出せる。</p>

## 【各回のテーマ】

<p>(新社会福祉システムと基本的な考え方)</p> <p>第1週 地域福祉の発展過程</p> <p>第2週 行政と住民の協働による新地域福祉</p> <p>第3週 新福祉サービスシステムとしての地域福祉</p> <p>第4週 地域福祉理論の発展と広がり</p> <p>第5週 地域のとらえ方と福祉圏域 (福祉教育、行政と民間組織の役割)</p> <p>第6週 地域福祉の推進と福祉教育</p> <p>第7週 地方分権化と地域福祉計画</p> <p>第8週 社会福祉協議会等社会福祉法人等の役割</p> <p>第9週 民生委員・児童委員、保護司の役割 (コミュニティソーシャルワークと専門職の役割)</p> <p>第10週 コミュニティソーシャルワークの考え方</p> <p>第11週 コミュニティソーシャルワークの方法</p> <p>第12週 専門職と住民の関係 (住民の参加と方法)</p> <p>第13週 地域福祉における住民参加の意義</p> <p>第14週 住民の代表性と参加方法</p> <p>第15週 まとめ</p>	<p>(ソーシャルサポートネットワーク)</p> <p>第16週 考え方と位置</p> <p>第17週 エコロジカルアプローチ (社会資源の活用・調整・開発)</p> <p>第18週 社会資源の活用・調整</p> <p>第19週 福祉サービスの開発 (福祉ニーズの把握方法)</p> <p>第20週 質的な福祉ニーズの把握方法</p> <p>第21週 量的な福祉ニーズの把握方法 (地域トータルケアシステムの構築)</p> <p>第22週 必要性和考え方</p> <p>第23週 地域トータルケアシステムの展開方法 (福祉サービスの評価方法)</p> <p>第24週 福祉サービスの評価を必要とする背景</p> <p>第25週 評価の考え方</p> <p>第26週 評価の方法 (地域福祉に影響を与えた海外の考え方)</p> <p>第27週 イギリス</p> <p>第28週 アメリカ</p> <p>第29週・第30週 まとめ</p>
---	---

成績評価方法	<p>1 期末試験 90%</p> <p>2 日常の授業態度 10%</p> <p>3 1と2による総合評価</p>
教科書	地域福祉の理論と方法 編集・社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規
参考書	
備考	教科書にあらかじめ目を通して授業に出席すること、質問を積極的に行うこと

科目名			担当者	
保健医療サービス			板垣 直子 浅野 浩一	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診察報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について学習する。</p> <p>※社会福祉士として相談援助業務の実務経験のある教員が、保健医療サービスについて講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健医療に関する基礎知識が理解できる。</li> <li>・ 保健医療の役割や機能が理解できる。</li> <li>・ 保健医療の法体系と運営実施体制が理解できる。</li> <li>・ 保健医療の財源と費用負担、また、保健医療の組織と活動が理解できる。</li> <li>・ 日本の保健医療の動向と今後の課題が理解できる。</li> </ul>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	保健医療サービスの概要
第2週	保健医療サービスの歴史と今日的課題
第3週	保健医療サービスを提供する施設とシステム①（医療施設の機能と類型）
第4週	保健医療サービスを提供する施設とシステム②（介護施設の機能と類型）
第5週	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み
第6週	医療ソーシャルワーカーの業務内容
第7週	保健医療の専門職の役割
第8週	保健医療の専門職の役割の実際
第9週	医療保険制度と診察報酬制度の概要
第10週	介護保険制度と介護報酬制度の概要
第11週	自立支援医療、公費負担医療制度の概要
第12週	保健医療の専門職との連携方法
第13週	保健医療の専門職との連携の実際
第14週	地域の社会資源との連携
第15週	地域ケア ネットワークの実際社会福祉を学ぶために（少子化と高齢化）
成績評価方法	小テスト・レポート課題（30%）、定期試験（70%）による評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑩保健医療サービス』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
就労支援サービス			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	15時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、福祉専門職として必要とされる就労支援についての知識の習得を目的とする。具体的には、相談支援活動において必要となる各種の就労支援制度について理解するとともに、就労支援に係る組織、団体及び専門職について学習する。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持つ教員が、就労支援サービスの授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>就労支援の担い手となる社会福祉士に必要とされる知識の習得を目的とする。具体的な達成課題として、就労支援に必要な各種の就労支援制度について理解できること。また、就労問題の所在や解決の方向性が理解し、就労問題に直面しているクライアントの抱える課題に対応できる視点を獲得すること。</p>
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>	
第1週	現代の労働を取り巻く現状
第2週	労働に関する法律と制度
第3週	低所得者と就労支援①（低所得者の就労の現状）
第4週	低所得者と就労支援②（就労支援制度）
第5週	低所得者と就労支援③（専門職の役割）
第6週	障害者と就労支援①（障害者の就労の現状）
第7週	障害者と就労支援②（就労支援制度）
第8週	障害者と就労支援③（専門職の役割）
第9週	障害者と就労支援④（民間の取り組み、諸外国の取り組み）
第10週	就労支援とケアマネジメント①
第11週	就労支援とケアマネジメント②
第12週	就労支援とネットワーク
第13週	連携・ネットワーキングの実際
第14週	多様化する支援と新たな取り組み
第15週	就労支援サービスの事例研究
成績評価方法	レポート課題及び小テスト等による評価30%、学期末定期試験による評価70%により総合的に評価する
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑱就労移行サービス』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	



科目名			担当者	
権利擁護と成年後見制度			前川 勤	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、相談援助と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、成年後見制度（後見人等の役割を含む）、日常生活自立支援事業について学習する。また、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について学習する。</p> <p>※地方高等裁判所長官を務めた経験のある教員が、権利擁護と成年後見制度の科目を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>本科目では、相談援助と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、成年後見制度（後見人等の役割を含む）、日常生活自立支援事業について学習する。また、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について学習する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	日本国憲法の理解
第2週	行政法の理解
第3週	民法の理解
第4週	社会福祉関連法
第5週	成年後見制度①（成年後見・補佐・補助の概要）
第6週	成年後見制度②（申立ての流れ）
第7週	成年後見制度の最近の動向と課題
第8週	日常生活自立支援事業の概要
第9週	成年後見制度利用支援事業の概要
第10週	権利擁護にかかわる組織・団体（家庭裁判所・法務局・市町村・社会福祉協議会の役割）
第11週	権利擁護にかかわる専門職の役割（弁護士・司法書士・公証人・医師・社会福祉士の役割）
第12週	成年後見活動の実際①（認知症を有する者・消費者被害を受けた者への対応）
第13週	成年後見活動の実際②（障害児・者、町村長申立てのケースへの対応）
第14週	権利擁護活動の実際①（被虐待児・高齢者虐待・アルコール等依存者への対応）
第15週	権利擁護活動の実際②（非行少年・ホームレス・多問題重複ケースへの対応）
成績評価方法	課題提出、学期末試験による総合評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑩権利擁護と成年後見制度』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
更生保護制度			前川 勤	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	15時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<p>犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。</p> <p>本科目では、社会の中での働きかけ（処遇）を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な犯罪を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の実際と今後の展望について学習する。</p> <p>※地方高等裁判所長官を務めた経験のある教員が、更生保護制度の科目を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉でいう自立支援が必要である。</p> <p>本科目では、社会の中での働きかけ（処遇）を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、精神障害等の状態で重大な犯罪を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の実際と今後の展望について学習する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	更生保護制度の概要
第2週	刑事司法のなかの更生保護
第3週	仮釈放等と保護観察、生活環境の調整
第4週	更生保護における犯罪被害者等施策
第5週	更生保護制度の担い手①（保護観察官・保護司）
第6週	更生保護制度の担い手②（更生保護施設、民間協者）
第7週	更生保護制度における関係機関・団体①（裁判所とのかかわり）
第8週	更生保護制度における関係機関・団体②（検察庁とのかかわり）
第9週	矯正施設との連携
第10週	公共職業安定所・福祉事務所等とのかかわり
第11週	医療観察制度の概要
第12週	医療観察制度に基づく処遇
第13週	保護観察官の業務の実際
第14週	社会復帰調整官の業務の実際
第15週	更生保護の今後の展望
成績評価方法	課題提出、学期末試験による総合評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑳更生保護制度』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
介護概論			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>介護の目的と機能及び介護の基本原則を把握し上で、訪問介護の役割を理解できる。</p> <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、職務の理解、介護における尊厳の保持・自立支援、介護の基本等の授業を指導する。</p>
授業の基礎編達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護の理念及び原則が理解できる。</li> <li>・ ホームヘルプサービスの社会的役割を理解できる。</li> <li>・ 福祉従事者としての職業倫理を理解できる。</li> <li>・ 生活援助の方法を理解できる。</li> </ul>

## 【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	介護保険制度（制定の背景と制度の改正）	第 16 週	介護職の役割、専門性と多職種との連携①
第 2 週	多様なサービスの理解①（居宅サービス）	第 17 週	介護職の役割、専門性と多職種との連携②
第 3 週	多様なサービスの理解②（居宅サービス）	第 18 週	介護職の職業倫理
第 4 週	多様なサービスの理解③（施設サービス）	第 19 週	介護における安全の確保とリスクマネジメント
第 5 週	多様なサービスの理解④（施設サービス）	第 20 週	介護職の安全
第 6 週	多様なサービスの理解⑤（地域密着型サービス）	第 21 週	振り返り
第 7 週	多様なサービスの理解⑥（地域密着型サービス）	第 22 週	介護過程の基礎的知識①
第 8 週	介護サービスの提供に至るまでの流れ①	第 23 週	介護過程の基礎的知識②
第 9 週	介護サービスの提供に至るまでの流れ②	第 24 週	介護過程の基礎的知識③
第 10 週	人権と尊厳の保持①	第 25 週	介護過程の基礎的理解④
第 11 週	人権と尊厳の保持②	第 26 週	介護事例検討①
第 12 週	人権と尊厳の保持③・自立に向けた介護①	第 27 週	介護事例検討②
第 13 週	自立に向けた介護②	第 28 週	介護事例検討③
第 14 週	自立に向けた介護③	第 29 週	介護事例検討④
第 15 週	振り返り	第 30 週	振り返り

成績評価方法	小テスト（20%）、定期試験（80%）
教科書	介護職員初任者研修テキスト第1巻、第2巻/中央法規
参考書	適宜プリント配布
備考	

科目名			担当者	
福祉事務所運営論			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>社会福祉の主たる担い手に変化が生まれ、地域住民を対象とする社会福祉行政と社会福祉サービスを担う福祉事務所は、所掌事務の種類、質、量、住民の意識の変化、厳しい予算事情の中で、行政機関、社会福祉事業の実践や調整を担う組織、PR や相談窓口の役割を担う社会福祉センター等の役割に応えようと努力している。その全体像と課題を理解させること。</p> <p>○社会福祉行政の特質と役割、福祉事務所の歴史を説明できる。 ○福祉事務所の組織と社会福祉関係法令を踏まえた所掌事務と内容を説明できる。 ○福祉事務所職員に求められる技術的専門性と求められる倫理について説明できる。 ○福祉事務所が持つ今日的課題を考察できるようになる。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持つ教員が、福祉事務所運営論の授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>福祉事務所制度の根拠と歴史の変遷、所掌事務とその内容、組織と予算の現状、他の社会福祉行政機関(民生委員含む。)との関係、社会福祉協議会その他の民間社会福祉団体との関係、社会福祉主事を含めた職員に求められる専門性と倫理を学び、業務に求められる援助技術に触れ、社会が持つ期待にふれ、福祉事務所が持つ課題について説明する。</p> <p>福祉事務所の行政機関・サービス機関としての役割を理解し、課題を考察できるようにする。</p>
各回のテーマ	<p>第1週 社会の変化と福祉事務所 第2週 福祉事務所制度の成立とその歴史 第3週 福祉事務所と政策 第4週 福祉事務所と社会福祉法 第5週 所管事務を定める社会福祉関係法 第6週 福祉事務所の業務・組織と予算1 第7週 福祉事務所の業務・組織と予算2 第8週 福祉事務所と保健、医療、福祉等関係行政機関、民間福祉団体等との関係 第9週 福祉事務所の運営と民生委員制度 第10週 福祉事務所の専門職員とその役割 第11週 社会福祉主事の専門性と倫理 第12週 社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術 第13週 福祉事務所における自立支援 第14週 福祉事務所の運営をめぐる課題と動向 第15週 まとめ</p>
成績評価方法	レポート課題及び小テスト等による評価30%、学期末定期試験による評価70%により総合的に評価する
教科書	福祉事務所運営論(第3版) 宇山勝儀・船水博行編著 ミネルヴァ書房
参考書	社会福祉概論Ⅱ 社会福祉法人全国社会福祉協議会「社会福祉学習双書」編集委員会/編
備考	教科書にあらかじめ目を通して授業に出席すること、質問を積極的に行うこと

科目名			担当者	
相談援助演習 I			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。特に以下の内容について、専門的援助の基礎を学習する。①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術の習得、③基本的な面接技術の習得、④次に掲げる具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。また、実践活動については、個人、家庭、要援護者が直面する社会問題を把握し、一定の地域社会におけるニーズ調査やインタビュー、ボランティアなどの実践活動を以下の内容について行い、学習する。①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、②地域福祉の計画、③ネットワークキング、④社会資源の活用・調整・開発、⑤サービスの評価</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持ち、かつ、法令で定められている社会福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員が、相談援助演習 I の授業を指導する。</p>																																																															
授業の基礎編 達成課題	<p>社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。特に以下の内容について、専門的援助の基礎を学習する。①自己覚知、②基本的なコミュニケーション技術の習得、③基本的な面接技術の習得、④次に掲げる具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。また、実践活動については、個人、家庭、要援護者が直面する社会問題を把握し、一定の地域社会におけるニーズ調査やインタビュー、ボランティアなどの実践活動を以下の内容について行い、学習する。①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、②地域福祉の計画、③ネットワークキング、④社会資源の活用・調整・開発、⑤サービスの評価</p>																																																															
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>																																																																
<table border="0"> <tbody> <tr> <td>第 1 週</td> <td>社会福祉士に求められる資質①</td> <td>第 16 週</td> <td>社会福祉援助活動とソーシャルワーカー</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>社会福祉士に求められる資質②</td> <td>第 17 週</td> <td>地域住民へのアウトリーチとニーズ把握①</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>基本的なコミュニケーション技術①</td> <td>第 18 週</td> <td>地域住民へのアウトリーチとニーズ把握②</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>基本的なコミュニケーション技術②</td> <td>第 19 週</td> <td>地域福祉の基盤整備と開発事例①</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>基本的な面接技術①</td> <td>第 20 週</td> <td>地域福祉の基盤整備と開発事例②</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>基本的な面接技術②</td> <td>第 21 週</td> <td>地域のニーズ調査の方法について①</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>児童、高齢者、障害者領域の相談援助の現状</td> <td>第 22 週</td> <td>地域のニーズ調査の方法について②</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>児童、高齢者、障害者領域の相談援助の課題</td> <td>第 23 週</td> <td>地域のニーズ調査の方法について③</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>相談援助事例①ホームレス支援の現状と課題</td> <td>第 24 週</td> <td>地域社会におけるニーズ調査①</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>相談援助事例②虐待とネグレクト（児童）</td> <td>第 25 週</td> <td>地域社会におけるニーズ調査②</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>相談援助事例③虐待とネグレクト（高齢者）</td> <td>第 26 週</td> <td>地域社会におけるニーズ調査③</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>相談援助事例④DV被害者への支援</td> <td>第 27 週</td> <td>地域福祉の計画</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>相談援助事例⑤低所得者への支援の現状と課題</td> <td>第 28 週</td> <td>ネットワークキング</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>相談援助事例⑥権利擁護活動の現状と課題</td> <td>第 29 週</td> <td>社会資源の活用・調整・開発</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>相談援助事例⑦アドヴォカシーについて</td> <td>第 30 週</td> <td>サービスの評価</td> </tr> </tbody> </table>					第 1 週	社会福祉士に求められる資質①	第 16 週	社会福祉援助活動とソーシャルワーカー	第 2 週	社会福祉士に求められる資質②	第 17 週	地域住民へのアウトリーチとニーズ把握①	第 3 週	基本的なコミュニケーション技術①	第 18 週	地域住民へのアウトリーチとニーズ把握②	第 4 週	基本的なコミュニケーション技術②	第 19 週	地域福祉の基盤整備と開発事例①	第 5 週	基本的な面接技術①	第 20 週	地域福祉の基盤整備と開発事例②	第 6 週	基本的な面接技術②	第 21 週	地域のニーズ調査の方法について①	第 7 週	児童、高齢者、障害者領域の相談援助の現状	第 22 週	地域のニーズ調査の方法について②	第 8 週	児童、高齢者、障害者領域の相談援助の課題	第 23 週	地域のニーズ調査の方法について③	第 9 週	相談援助事例①ホームレス支援の現状と課題	第 24 週	地域社会におけるニーズ調査①	第 10 週	相談援助事例②虐待とネグレクト（児童）	第 25 週	地域社会におけるニーズ調査②	第 11 週	相談援助事例③虐待とネグレクト（高齢者）	第 26 週	地域社会におけるニーズ調査③	第 12 週	相談援助事例④DV被害者への支援	第 27 週	地域福祉の計画	第 13 週	相談援助事例⑤低所得者への支援の現状と課題	第 28 週	ネットワークキング	第 14 週	相談援助事例⑥権利擁護活動の現状と課題	第 29 週	社会資源の活用・調整・開発	第 15 週	相談援助事例⑦アドヴォカシーについて	第 30 週	サービスの評価
第 1 週	社会福祉士に求められる資質①	第 16 週	社会福祉援助活動とソーシャルワーカー																																																													
第 2 週	社会福祉士に求められる資質②	第 17 週	地域住民へのアウトリーチとニーズ把握①																																																													
第 3 週	基本的なコミュニケーション技術①	第 18 週	地域住民へのアウトリーチとニーズ把握②																																																													
第 4 週	基本的なコミュニケーション技術②	第 19 週	地域福祉の基盤整備と開発事例①																																																													
第 5 週	基本的な面接技術①	第 20 週	地域福祉の基盤整備と開発事例②																																																													
第 6 週	基本的な面接技術②	第 21 週	地域のニーズ調査の方法について①																																																													
第 7 週	児童、高齢者、障害者領域の相談援助の現状	第 22 週	地域のニーズ調査の方法について②																																																													
第 8 週	児童、高齢者、障害者領域の相談援助の課題	第 23 週	地域のニーズ調査の方法について③																																																													
第 9 週	相談援助事例①ホームレス支援の現状と課題	第 24 週	地域社会におけるニーズ調査①																																																													
第 10 週	相談援助事例②虐待とネグレクト（児童）	第 25 週	地域社会におけるニーズ調査②																																																													
第 11 週	相談援助事例③虐待とネグレクト（高齢者）	第 26 週	地域社会におけるニーズ調査③																																																													
第 12 週	相談援助事例④DV被害者への支援	第 27 週	地域福祉の計画																																																													
第 13 週	相談援助事例⑤低所得者への支援の現状と課題	第 28 週	ネットワークキング																																																													
第 14 週	相談援助事例⑥権利擁護活動の現状と課題	第 29 週	社会資源の活用・調整・開発																																																													
第 15 週	相談援助事例⑦アドヴォカシーについて	第 30 週	サービスの評価																																																													
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク・ロールプレイ等における発表資料等レポート提出状況（30%）</li> <li>グループワーク・ロールプレイ等における取り組み及び発表における実技状況（70%）</li> </ul>																																																															
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版</li> <li>『新・社会新福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版</li> <li>社団法人日本社会福祉士養成校協会 監修 『社会福祉士相談援助演習』白澤政和・福山和女・石川久展 編集 中央法規出版</li> </ul>																																																															
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する。																																																															
備考																																																																

科目名			担当者	
相談援助演習Ⅱ			板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、相談援助演習Ⅰで学んだ内容からさらに踏み込み、相談援助の価値、知識、理論について学ぶ。援助対象の理解やグループワークの方法論、コーディネーションやネットワーキングの実際、社会資源の活用方法等といった包括的な相談援助実践について学ぶ。</p> <p>また、相談援助実践に用いられる実践理論の歴史の変遷や、さまざまな実践家庭、要援護者が直面する社会問題を把握し、一定の地域社会におけるニーズ調査やインタビュー、ボランティアなどの実践活動を以下の内容について行い、学習する。</p> <p>①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、②地域福祉の計画、③ネットワーキング、④社会資源の活用・調整・開発、⑤サービスの評価</p> <p>※社会福祉士として相談援助業務の実務経験があり、かつ、法令で定められている社会福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員が、相談援助演習Ⅱの授業を指導する。</p>
授業の概要達成課題	<p>本科目では、相談援助演習Ⅰで学んだ内容からさらに踏み込み、相談援助の価値、知識、理論について学ぶ。援助対象の理解やグループワークの方法論、コーディネーションやネットワーキングの実際、社会資源の活用方法等といった包括的な相談援助実践について学ぶ。</p> <p>また、相談援助実践に用いられる実践理論の歴史の変遷や、さまざまな実践家庭、要援護者が直面する社会問題を把握し、一定の地域社会におけるニーズ調査やインタビュー、ボランティアなどの実践活動を以下の内容について行い、学習する。</p> <p>①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、②地域福祉の計画、③ネットワーキング、④社会資源の活用・調整・開発、⑤サービスの評価</p>
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>	
第 1 週	社会福祉援助活動とソーシャルワーカー
第 2 週	地域住民へのアウトリーチとニーズ把握①
第 3 週	地域住民へのアウトリーチとニーズ把握②
第 4 週	地域福祉の基盤整備と開発事例①
第 5 週	地域福祉の基盤整備と開発事例②
第 6 週	地域のニーズ調査の方法について①
第 7 週	地域のニーズ調査の方法について②
第 8 週	地域のニーズ調査の方法について③
第 9 週	地域社会におけるニーズ調査①
第 10 週	地域社会におけるニーズ調査②
第 11 週	地域社会におけるニーズ調査③
第 12 週	地域福祉の計画
第 13 週	ネットワーキング
第 14 週	社会資源の活用・調整・開発
第 15 週	サービスの評価
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク・ロールプレイ等における発表資料等レポート提出状況 (30%)</li> <li>・グループワーク・ロールプレイ等における取り組み及び発表における実技状況 (70%)</li> </ul>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版</li> <li>『新・社会新福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版</li> <li>・社団法人日本社会福祉士養成校協会 監修 『社会福祉士相談援助演習』白澤政和・福山和女・石川久展 編集 中央法規出版</li> </ul>
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
相談援助演習Ⅲ			青木 ルミ子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、社会福祉に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を養う。前期には、個別援助技術の内容や展開過程をロールプレイ等を通じて実践的に学び、後期は、個別・集団の両援助技術と関連援助技術について、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。</p> <p>※社会福祉士として相談援助業務の実務経験があり、かつ、法令で定められている社会福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員が、相談援助演習Ⅲの授業を指導する。</p>			
授業の基礎編達成課題	<p>本科目では、社会福祉に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を養う。前期には、個別援助技術の内容や展開過程をロールプレイ等を通じて実践的に学び、後期は、個別・集団の両援助技術と関連援助技術について、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第1週	個別援助の展開過程について	第16週	相談援助実技指導①アウトリーチ	
第2週	相談援助事例①社会的排除	第17週	相談援助実技指導②チームアプローチ	
第3週	相談援助事例②虐待（児童・高齢者）	第18週	相談援助実技指導③ネットワーキング	
第4週	相談援助事例③家庭内暴力（D.V）	第19週	相談援助実技指導④社会資源の活用・調整	
第5週	相談援助事例④低所得者	第20週	相談援助実技指導⑤ケアマネジメントⅠ	
第6週	相談援助事例⑤ホームレス	第21週	相談援助実技指導⑥ケアマネジメントⅡ	
第7週	相談援助事例⑥権利擁護	第22週	相談援助実技指導⑦ケースカンファレンスの実際Ⅰ	
第8週	相談援助場面と過程①インテーク	第23週	相談援助実技指導⑧ケースカンファレンスの実際Ⅱ	
第9週	相談援助場面と過程②アセスメント	第24週	高齢者領域の集団援助技術の現状と課題	
第10週	相談援助場面と過程③プランニング	第25週	精神障害領域の集団援助技術の現状と課題	
第11週	相談援助場面と過程④支援の実施	第26週	アルコール・薬物依存支援の現状と課題	
第12週	相談援助場面と過程⑤モニタリング	第27週	自助グループについて	
第13週	相談援助場面と過程⑥効果測定	第28週	事例研究・事例分析の意義	
第14週	相談援助場面と過程⑦	第29週	ケースカンファレンスの技術	
第15週	相談援助場面と過程⑧ケアマネジメント	第30週	事例検討とまとめ	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク・ロールプレイ等における発表資料等レポート提出状況（30%）</li> <li>グループワーク・ロールプレイ等における取り組み及び発表における実技状況（70%）</li> </ul>			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士養成講座編集委員会 編</li> <li>『新・社会新福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版</li> <li>『新・社会新福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版</li> <li>社団法人日本社会福祉士養成校協会 監修</li> <li>『社会福祉士相談援助演習』白澤政和・福山和女・石川久展 編集 中央法規出版</li> </ul>			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する。			
備考				

科目名			担当者	
相談援助実習指導 I			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、社会福祉実践現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる介護や保育等の関連業務や、実習の記録内容及び記録方法、巡回指導の必要性等、実習全般に関する基本的な事項を学習し、学生一人ひとりの実習に臨む動機や学習目標を明確にする。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持ち、かつ、法令で定められている社会福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員が、相談援助実習指導 I の授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>本科目では、社会福祉実践現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる介護や保育等の関連業務や、実習の記録内容及び記録方法、巡回指導の必要性等、実習全般に関する基本的な事項を学習し、学生一人ひとりの実習に臨む動機や学習目標を明確にする。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	相談援助実習とは何か①
第 3 週	相談援助実習とは何か②
第 4 週	相談援助実習の実際①
第 5 週	相談援助実習の実際②
第 6 週	相談援助実習現場の現状と課題①
第 7 週	相談援助実習現場の現状と課題②
第 8 週	社会福祉行政機関と実習計画モデル
第 9 週	高齢者福祉施設と実習計画モデル
第 10 週	知的障害児・者施設と実習計画モデル
第 11 週	児童福祉施設と実習計画モデル
第 12 週	医療福祉関係施設と実習計画モデル
第 13 週	市区町村社会福祉協議会と地域福祉型フィールドと実習計画モデル
第 14 週	生活保護施設、婦人保護機関と実習計画モデル
第 15 週	司法福祉施設・機関と実習計画モデル
成績評価方法	実習レポート等の課題提出状況 (30%)、実習等実技状況 (70%) により総合的に評価する
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法 I』中央法規出版</li> <li>『新・社会新福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法 II』中央法規出版</li> <li>社団法人日本社会福祉士養成校協会 監修 『社会福祉士相談援助実習』白澤政和・米本秀仁 編集 中央法規出版</li> </ul>
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	



科目名			担当者	
相談援助実習指導Ⅱ			渡辺 英隆	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野（利用者理解を含む）と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。前期には、実習先と指導教員との指導のもとで実習計画書を策定する。後期には、学生自身の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門援助技術として概念か・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。具体的には、実践事例の報告と検討、総括を行い、総合的に対応できる能力を取得することを目標とする。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持ち、かつ、法令で定められている社会福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員が、相談援助実習指導Ⅱの授業を指導する。</p>			
授業の基礎編達成課題	<p>本科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野（利用者理解を含む）と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。前期には、実習先と指導教員との指導のもとで実習計画書を策定する。後期には、学生自身の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門援助技術として概念か・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。具体的には、実践事例の報告と検討、総括を行い、総合的に対応できる能力を取得することを目標とする。</p>			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第1週	各実習先に対する理解①	第16週	実習体験の振り返り①	
第2週	各実習先に対する理解②	第17週	実習体験の振り返り②	
第3週	実習先で必要とされる相談援助の知識と技術①	第18週	グループ事例研究①	
第4週	実習先で必要とされる相談援助の知識と技術②	第19週	グループ事例研究②	
第5週	実習計画書の策定①	第20週	グループ事例研究③	
第6週	実習計画書の策定②	第21週	グループ報告書作成①	
第7週	実習計画書の策定③	第22週	グループ報告書作成②	
第8週	実習計画書の策定④	第23週	グループ報告書作成③	
第9週	実習における実習記録の記録法の理解	第24週	実習報告会①	
第10週	実習体験の整理①	第25週	実習報告会②	
第11週	実習体験の整理②	第26週	実習報告会③	
第12週	実習体験の整理③	第27週	個別の総括①	
第13週	実習体験の総括①	第28週	個別の総括②	
第14週	実習体験の総括②	第29週	個別総括レポート①	
第15週	実習体験の総括③	第30週	個別総括レポート②	
成績評価方法	実習レポート等の課題提出状況（30%）、実習等実技状況（70%）により総合的に評価する			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版</li> <li>『新・社会新福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版</li> <li>・社団法人日本社会福祉士養成校協会 監修 『社会福祉士相談援助実習』白澤政和・米本秀仁 編集 中央法規出版</li> </ul>			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する			
備考				

科目名			担当者	
相談援助実習			渡辺 英隆 板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	実習	180時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>相談援助実習は、社会福祉主事及び社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目として位置づけられており、その目的が厚生労働省によって以下のように示されています。</p> <p>①現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める</p> <p>②「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する</p> <p>③職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもついた行動ができるようにする</p> <p>④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する</p> <p>⑤関連分野の専門職とのあり方及びその具体的内容を理解する</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持ち、かつ、法令で定められている社会福祉士実習演習担当教員講習会を修了した教員が、相談援助実習の授業を指導する。</p>
授業の概要達成課題	<p>相談援助実習は、社会福祉主事及び社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目として位置づけられており、その目的が厚生労働省によって以下のように示されています。</p> <p>①現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める</p> <p>②「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する</p> <p>③職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもついた行動ができるようにする</p> <p>④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する</p> <p>⑤関連分野の専門職とのあり方及びその具体的内容を理解する</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>相談援助実習は、本学社会福祉科指定施設を実習施設とし、社会福祉ニーズに応じた適切な社会福祉援助技術を用い方とその評価の方法を学ぶことを目標としています。</p> <p>相談援助実習においては、具体的な目標として以下の点に重点を置くように心がけてください。</p> <p>① 福祉行政機関及び社会福祉施設利用者個々の様々な福祉ニーズに応じた相談援助業務を学ぶ。</p> <p>② 利用者が日常のあらゆる生活経験を通じて「生活の質」の向上を図ることができるような相談援助方法を学び、利用者の日常生活への援助実践を通して、相談援助の技術を高める。</p> <p>③ 利用者への個別援助技術（ケースワーク）や社会福祉施設等でのクラブ活動等の集団援助技術（グループワーク）を体験し、施設での集団生活における人間的な関わりの中にあって発生する様々な問題を解決するための諸方法を学び、社会福祉施設利用者の生活の質を高める。</p> <p>④ 各種社会福祉専門職の役割を理解し、相互の連携のあり方について学習する。</p>	
成績評価方法	相談援助実習日誌、アセスメント用紙等課題提出物（30%）、実習中における実技状況（70%）により総合的に評価する
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座⑦相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版</li> <li>『新・社会新福祉士養成講座⑧相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版</li> <li>社団法人日本社会福祉士養成校協会 監修 『社会福祉士相談援助実習』白澤政和・米本秀仁 編集 中央法規出版</li> </ul>
参考書	
備考	

科目名			担当者	
生活アクティビティ			金野 麻衣	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	レクリエーションの認識が高まり、一般化してきている現代において、レクリエーション支援者としてどのような役割が求められているかを学ぶ。 また、様々なレクリエーション活動を経験し、その支援の方法や行事の企画運営などについて学習する。			
授業の基礎編達成課題	様々なレクリエーション財に触れ、説明ができるようになるとともに、支援方法の幅広さや、対象者の主体性を尊重した姿勢等の、レクリエーション支援の概要について理解していく。さらに、様々な人との関わりの中でコミュニケーションスキルを高める。			
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>				
第1週	ガイダンス	第16週	コミュニケーション・ワーク (ホスピタリティ①)	
第2週	レクリエーションの意義	第17週	コミュニケーション・ワーク (ホスピタリティ②)	
第3週	レクリエーション運動の歴史	第18週	レクリエーション活動①ニュースポーツ	
第4週	レクリエーション・インストラクターの役割と期待	第19週	レクリエーション活動②ニュースポーツ	
第5週	レクリエーション活動の楽しさ	第20週	良好な集団づくり①	
第6週	高齢社会の課題とレクリエーション	第21週	良好な集団づくり②	
第7週	少子化の課題とレクリエーション	第22週	コミュニケーション・ワーク (アイスブレイキング①)	
第8週	地域とレクリエーション	第23週	コミュニケーション・ワーク (アイスブレイキング②)	
第9週	レクリエーション支援の構造と理解	第24週	アイスブレイキングプログラム	
第10週	レクリエーション支援の展開と方法	第25週	対象者に合わせたアレンジ方法	
第11週	レクリエーション事業と役割	第26週	場面に応じた事業の企画運営	
第12週	レクリエーション活動①クラフト	第27週	事業運営における安全管理、事業の評価	
第13週	レクリエーション活動②クラフト	第28週	対象者・支援実習に合わせた活動計画書の作成	
第14週	レクリエーション活動③クラフト	第29週	レクリエーション行事の実際「集い」	
第15週	まとめ	第30週	まとめ	
成績評価方法	試験 50%、作品 25%、演習課題 25%による評価			
教科書	楽しさをとおした心の元気づくり 日本レクリエーション協会 2017			
参考書	授業内でプリントを配布することもある。			
備考				

科目名			担当者	
生活支援技術			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>障害や機能低下のない状態の動作から、何らかの理由で自立困難となった状態の身体動作についての理解を深め、それぞれの状態にあった介護技術を適切に提供できることを目標とする。</p> <p>*介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、生活支援技術の演習授業を指導する。</p>			
授業の基礎編達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体の基本的仕組みと動作のメカニズムを理解する。</li> <li>・ 支援を必要とする障害や疾病について理解する。</li> <li>・ 支援を必要とする方それぞれに合った介護が提供できるようになる。</li> <li>・ 自立に向けた介護を提供できるようになる。</li> </ul>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	オリエンテーション、介護の基本	第16週	前期の振り返り	
第2週	介護の原則、身体各部の名称	第17週	身支度の介護	
第3週	睡眠に関する基礎知識	第18週	洗顔・整髪・ひげの手入れの介助	
第4週	快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法	第19週	つめの手入れ・耳の清潔の介助	
第5週	睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法①	第20週	衣服の着脱の介助	
第6週	睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法②	第21週	排泄の介護	
第7週	移動の介護	第22週	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助	
第8週	移動・移乗の基本的理解	第23週	尿器・差込便器での排泄の介助	
第9週	体位変換の介助	第24週	おむつでの排泄の介助	
第10週	安楽な姿勢・体位を保持する介助	第25週	入浴・清潔保持の介護	
第11週	車いす介助	第26週	入浴の介助	
第12週	歩行の介助・食事の介護①	第27週	清潔保持の介助	
第13週	食事の介護②	第28週	終末期に関する基礎知識	
第14週	食事の介護③	第29週	総合生活支援技術演習①	
第15週	まとめ	第30週	総合生活支援技術演習②	
成績評価方法	小テスト (20%)、定期試験 (80%)			
教科書	介護職員初任者研修テキスト第2巻/中央法規			
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体的生活援助の授業の際は運動着着用、上履き準備をお願いします。</li> <li>・ 腕時計、指輪等のアクセサリ類は怪我の防止のためにも外して授業に臨んでください。</li> </ul>			

科目名			担当者	
介護実習			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	実習	45時間	必修 1単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>講義で学んだ知識、技術を具体的かつ実践的に理解する。</p> <p>※介護福祉士としての実務経験のあり、かつ、法令で定められている介護教員講習会を修了した教員が、介護実習の指導をする。</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護施設、サービスについて理解する。</li> <li>・利用者との関わりを深め、その方が求める介護を提供できるようになる。</li> <li>・介護実践を通し、知識・技術を習得する。</li> </ul>

【各回のテーマ・内容・授業方法】

【4日間を通しての主な実習内容】

1. 実習オリエンテーション。
2. 多様な介護サービスと施設の概要を理解する。
3. コミュニケーションの実践を通し、そのあり方を理解する。
4. 利用者の方との関わりの中でその方の特性、生活のリズムを理解し情報収集を行うことで、その理解を深める。
5. 介護専門職、他職種の業務内容を把握し他職種間での協働の実践を理解する。
6. 実践を通し基本的介護技術を学ぶ。

成績評価方法	実習評価表による総合評価
教科書	適宜プリント
参考書	
備考	実習中は遅刻、欠席厳禁。やむを得ず遅刻、欠席する場合は学校、実習先へ連絡しその指示を仰ぐ。また、実習中は清潔な服装、真摯な態度で臨むこと。

科目名			担当者	
介護・福祉サービスの理解			板垣 直子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>介護・福祉サービスに関する基礎知識の体系的な習得を目指す。具体的には、現代社会において果たしている介護・福祉サービスの役割や機能、介護職員初任者研修資格に必要な基礎知識、介護・福祉サービスの歴史、法体系と運営実施体制、財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の介護・福祉サービスの動向と今後の課題などについて学習する。</p> <p>※社会福祉士として相談援助業務の実務経験のある教員が、介護・福祉サービスについて指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護・福祉サービスに関する基礎知識が理解できる。</li> <li>・ 介護・福祉サービスの役割や機能が理解できる。</li> <li>・ 介護・福祉サービスの法体系と運営実施体制が理解できる。</li> <li>・ 介護・福祉サービスの財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動が理解できる。</li> <li>・ 日本の介護・福祉サービスの動向と今後の課題が理解できる。</li> </ul>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	介護の職務の理解①介護とは	第 16 週	介護保険のサービス体系①居宅サービス	
第 2 週	介護の職務の理解②多様なサービスの理解	第 17 週	介護保険のサービス体系②施設サービス	
第 3 週	介護の職務の理解③介護職の仕事内容や働く現場の理解	第 18 週	介護保険のサービス体系③介護予防サービス	
第 4 週	介護職の役割、専門性と多職種との連携	第 19 週	介護保険のサービス体系④地域密着サービス	
第 5 週	介護職の職業倫理	第 20 週	高齢者支援の方法と実際	
第 6 週	介護における安全の確保とリスクマネジメント	第 21 週	高齢者を支援する組織と役割	
第 7 週	老人福祉法	第 22 週	専門職の役割と実際	
第 8 週	高齢者の医療の確保に関する法律	第 23 週	介護過程	
第 9 週	高齢者虐待防止法	第 24 週	障害者総合支援制度①背景	
第 10 週	その他の関係法規	第 25 週	障害者総合支援制度②基本的な構造	
第 11 週	介護保険法①目的と理念	第 26 週	障害者総合支援制度③しくみと運営の現状	
第 12 週	介護保険法②保険財政	第 27 週	その他の制度①生活保護制度	
第 13 週	介護保険法③保険者と被保険者	第 28 週	その他の制度②成年後見制度	
第 14 週	介護保険法④要介護認定の仕組みとプロセス	第 29 週	その他の制度③日常生活自立支援事業	
第 15 週	介護保険法⑤保険給付と介護報酬	第 30 週	その他の制度④虐待防止制度、その他	
成績評価方法	小テスト・レポート課題 (30%)、定期試験 (70%) で評価する			
教科書	介護職員初任者研修テキスト全2巻 中央法規出版			
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する			
備考	介護職員初任者研修修了科目の一つのため、全出席を求めます			

科目名			担当者	
国際福祉研究			渡辺 英隆 中里 仁	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<p>1. 国際福祉を学ぶことにより、国際福祉の対象となる人々の抱える問題点や課題について理解し国際福祉分野で活躍できる人材を育成することを本講義の目的と達成目標とする。</p> <p>2. 社会福祉士の仕事は、日々の社会福祉士実践に直接向き合う仕事である。ローカルな実践に加え、グローバルな視点を持った発想が求められる。また、グローバル化の中で規制緩和や競争原理の導入など国際的な様々な動向を国際比較することで、新たな展開のあるべき方向性を学習し、現実の社会福祉の現場で起きている問題へ応用できる力を身に着ける。</p>
授業の概要 達成課題	<p>社会福祉士の仕事は、グローバルな視点を持った発想が求められる。また、グローバル化の中で規制緩和や競争原理の導入など国際的な様々な動向を国際比較することで、新たな展開のあるべき方向性を学習する。</p> <p>新たな展開のあるべき方向性を学習し、現実の社会福祉の現場で起きている問題へ応用できる力を身に着ける。</p> <p>1) 国際福祉とはなにか、3つの概念について説明できるようになる。 2) 国際福祉の対象となる人々の抱える問題点や課題について説明できるようになる。 3) 日本の海外支援について説明できるようになる。 4) 国際福祉分野で活躍する人材になることができるようになる。</p>
<b>【各回のテーマ・内容・授業方法】</b>	
<p>第1週 国際福祉とは/国際福祉の3つの概念を理解する。</p> <p>第2週 グローバリゼーションとは/グローバリゼーションとは何かを理解する。</p> <p>第3週 グローバリゼーション時代の福祉/冷戦終結後の1990年代から今世紀にかけて大きく変わってきた世界における福祉福祉分野の現状を理解する。</p> <p>第4週 福祉政策の国際比較①社会政策の3類型</p> <p>第5週 福祉政策の国際比較②欧米の福祉政策（スウェーデンの高齢者福祉～自治体と介護保障～）</p> <p>第6週 福祉政策の国際比較③欧米の福祉政策（アメリカの高齢者介護～市場原理と介護保障）</p> <p>第7週 福祉政策の国際比較④欧米の福祉政策（ドイツの高齢者介護～介護保険制度と介護保障）</p> <p>第8週 福祉政策の国際比較⑤欧米の福祉政策（イギリスの社会保障～民営化と個人化が進む介護～）</p> <p>第9週 福祉政策の国際比較⑥東アジア諸国の福祉政策（東アジア福祉モデル）</p> <p>第10週 福祉政策の国際比較⑦東アジア諸国の福祉政策（中国・韓国・台湾の福祉政策）</p> <p>第11週 国際機関と国際福祉/国際連合をはじめとする国際機関の役割について理解する。</p> <p>第12週 国際協力と国際福祉/国際協力の歴史的展開について理解する。</p> <p>第13週 国際福祉における日本の役割①/日本のODAの現状と課題を理解する。</p> <p>第14週 国際福祉における日本の役割②/日本のNGOの現状と課題を理解する。</p> <p>第15週 まとめ</p>	
成績評価方法	小テスト（30%）、定期試験（70%）で評価する
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会 編 『新・社会新福祉士養成講座④現代社会と福祉』中央法規出版
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	

科目名			担当者	
卒業研究			渡辺 英隆 板垣 直子 伊藤 利恵	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<p>本科目では、基礎教育科目及び専門教育科目で履修した講義演習を踏まえ、学生らは自ら研究テーマを設定し、卒業研究を行う。大学編入学希望者には研究方法の基礎を身につける。</p> <p>※福祉研究・研修機関において研究・研修等の経験を持つ教員が、卒業研究の科目を指導する。社会福祉士として相談援助業務の実務経験をもつ教員が、卒業研究の科目を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>本科目では、基礎教育科目及び専門教育科目で履修した講義演習を踏まえ、学生らは自ら研究テーマを設定し、卒業研究を行う。大学編入学希望者には研究方法の基礎を身につける。</p>

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 研究とは
- 第2週 研究の意義①
- 第3週 研究の意義②
- 第4週 研究方法①
- 第5週 研究方法②
- 第6週 研究方法③
- 第7週 卒業研究①テーマ設定
- 第8週 卒業研究②テーマ設定
- 第9週 卒業研究③研究計画書の作成
- 第10週 卒業研究④研究計画書の作成
- 第11週 卒業研究⑤卒業論文の作成
- 第12週 卒業研究⑥卒業論文の作成
- 第13週 卒業研究⑦卒業論文の作成
- 第14週 卒業研究発表①
- 第15週 卒業研究発表②

成績評価方法	論文提出 (70%)、発表実技 (30%) で評価する
教科書	よくわかる卒論の書き方 白井利明・高橋一郎著 (ミネルヴァ書房)
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する
備考	